



1\_ 出発式でテープカットし、初輸出を祝う(左から)渡辺忠義 J A 会津よつば米穀部長、五十嵐会長、前後町長、稲作部会の小林文男会長 2\_ 初輸出の出発式後、トラックに米を積み込む関係者 3\_ 「いなわしろ天のつぶ」をバイヤーらに P R する関係者(2月21日、ドバイ)



# 「いなわしろ天のつぶ」輸出始まる

## 町農業の大きな一歩

J A 会津よつば猪苗代稲作部会は3月3日、町のブランド米「いなわしろ天のつぶ」を海外向けに初輸出しました。

同日、J A 会津よつば東部営農経済センターで出発式が行われ、輸出される米がトラックで発送されました。

式典では、同 J A 代表理事専務で町農産物等ブランド化推進委員会の五十嵐孝夫会長が「風評払しょくのいいアピールになる」、前後公町長は「量は少ないが、本町農業の歴史において大きな一歩」と期待を寄せました。

同部会は2月にアラブ首長国連邦のドバイで開かれた国際食品見本市「GULFOOD(ガルフード)2016」に出展。試食用に「いなわしろ天のつぶ」のおにぎりを提供し、バイヤーから高い評価を得ました。後日、カタール・ドohaの食品会社から購入希望があり、販売用として初めての輸出が決まりました。

このたびの初輸出では、1キロの袋で計210キロを出荷。現地のスーパーマーケットで販売される

予定です。

3月24日には、輸出第2便として210キロがドバイに出荷されました。

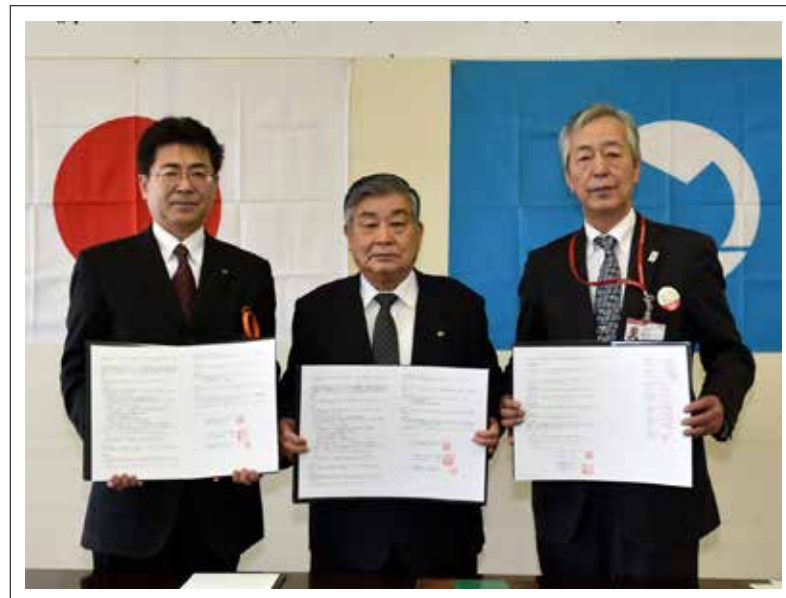
## 欧州進出にも追い風

オランダ福島県人会の石川武司会長は3月16日、町役場を訪れ、前後公町長に「オランダで町内産農産物の P R に協力したい」との考えを示しました。

「5月にオランダで開かれるジャパンマーケットにおいて、『いなわしろ天のつぶ』などを提供し、福島県安全性を P R したい」と話しました。



前後町長と握手を交わす石川会長(右)



協定書に調印した(左から)佐藤局長、前後町長、渡部局長

## Pick Up

### 今月のイベント

町民の安心、安全な暮らしのため手を携える

町は3月8日、町内の7郵便局および郡山郵便局と相互連携協定、災害発生時における協定をそれぞれ締結しました。

調印式は同日、町役場で行われ、前後公町長と町内郵便局代表の佐藤孝二猪苗代郵便局長(当時)、渡辺満郡山郵便局長が協定書に調印しました。

式では、前後公町長が「町内全域をカバーするネットワークを生かし、子どもや高齢者などの見守りを行ってもらうことで、町民がより安心して暮らせる町にしたい」とあいさつ。渡辺局長は「職員一人一人が町の安全のために役立つよう取り組んでいきたい」と述べました。

相互連携協定では、子どもや高齢者の見守りをはじめ、道路の危険箇所などを発見した場合、町に情報を提供することとしています。災害協定には、避難所開設状況や避難先リストなどの相互提供、緊急車両の提供などを盛り込みました。

町ではこの他、町内で配達を行う事業者や電力会社と「高齢者等の支援に関する協定」「地域の見守りの取組に関する協定」「災害時等における電力復旧の協力に関する協定」をそれぞれ締結し、安心、安全な町づくりを進めています(関連10ページ)。

まちの応援マガジン いなわしろ

## 広報猪苗代

Apr.2016  
4  
No.666

### 今月の表紙



【撮影日】3月18日  
【撮影場所】千里幼稚園

3月で閉園となる町内の各幼稚園では、卒園式に引き続き、閉園式が行われました。千里幼稚園の閉園式では、さみしそうな顔を浮かべる保護者と対照的に、園児たちが「ありがとうさようなら」を元気いっぱい歌いました。

## Contents — 【目次】

- 02 PICK UP
- 03 「いなわしろ天のつぶ」の輸出始まる
- 04 まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略を策定
- 06 平成28年度予算
- 08 写真特集 卒業・卒園
- 10 まちのわだい
- 13 青年海外協力隊 現地レポート
- 14 笑顔でこんにちは／きりり光るおらが村／スクールトピックス／イベントレポート
- 16 いなわしろタウンページ
- 22 暮らしの情報広場
- 24 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー